



2016年度LSO利用状況

学習サポートの年間延べ利用人数は、例外的に約3500人を記録した2014年度を除くと緩やかな増加傾向を示しており、2016年度は3189人*となりました(図1)。大学院生チューター(TA)配置の効率化・スリム化を進めていたことを考慮すると、まずまずの結果と言えるでしょう。科目別に見てみると、数学

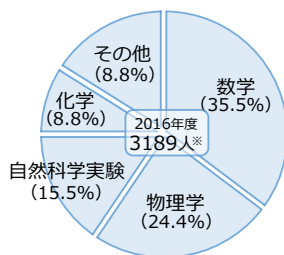
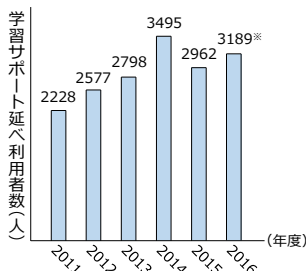


図1 学習サポート延べ利用者数の推移 図2 学習サポート科目別利用状況

(線形代数学及び微分積分学)と物理学が半分以上を占め、次に自然科学実験が続きます(図2)。「その他」には生物学や地球惑星科学、英語、2年次以上の学生からの質問等が含まれます。

そのほかの主な支援内容の利用者数を表1にまとめます。修学設計支援の利用者数は例年並みですが、各学部・学科等の典型的・標準的な時間割を壁に張り出す学部時間割ポスター展示(学部・学科等紹介の日に開催)では、2月の開催時に初めて2・3年生4学期分すべての時間割の展示を行いました。

各学期の始めに開講し、ノートの取り方やレポートの書き方、プレゼンの手法をレクチャーするスタディ・スキルセミナーが昨年度よりさらに参加者を増やした半面、学部生・大学院生向けに論文の書き方や発表の仕方を伝えるアカデミック・スキルセミナーの参加人数は減ってしまいました。これには広報の仕方の

影響が小さくないようです。

2年目を迎えた資料配布型学習支援の物理のコツ(力学編全11回、熱力学編全6回、電磁気学編全4回)は、内容改善により前年度の約1.5倍と大きく配布数を伸ばしました。各回の最後に載っている演習問題の略解の配布数も伸ばしており、学習効果が期待されます。

2016年度の英語コミュニケーションは一学期だけの開催となったことを受け、参加人数は半減となりました。

また、全学部の研究キーワードをまとめたアカデミック・マップ2017の作成では、研究キーワードの質向上に努め、冊子版のデザインを一新しました。内容・使いやすさ共に大きく改善されました。

2017年度はさらに学習支援を充実させる計画が進行しています。新たに統計学の支援が始まる予定です。LSOのHPから閲覧できるLSO有機化学のページがすでに公開されており、執筆が進められています。従来の支援の内容改善と共に、これらの新企画にも注力して参ります。(浅賀圭祐)

表1 2016年度利用状況

	延べ利用者数(カッコ内は2015年度実績)
進路選択・履修相談	783人*(873人)
進路相談会(時間割ポスター展示)	315人(318人)
学習サポート	3189人*(2962人)
スタディ・スキルセミナー	501人(414人)
アカデミックスキルセミナー	143人(306人)
物理のコツ	7394枚配布(4962枚)
英語コミュニケーション	61人(118人)
英語ライティングクリニック	13人(15人)

*2017年3月8日時点

スタッフの心象 第13回「転学部希望の理由」

このコーナーではLSOに寄せられる進路・修学・学習相談の内容を元に、相談現場の様子をお伝えします。

LSOには時折2年次以上の学生も進路相談にやってきます。多いのが転学部の相談です。選んだ学部・学科が思っていたものと違った、本当にやりたかったことが忘れられない、など転学部の思い立つ理由は様々です。中には人間関係のことで今の学部が嫌になってしまい、転学部したいという学生もいます。数学がすごく苦手にも関わらず数物系学科に来てしまった、という切実な場合もあります。

転学部した先での目標、やりたいことが定まっていて、そのため基礎学力が備わっているならば、希望が叶う可能性は十分にあるでしょう。しかし、今いる学部を出たい事情ばかりが先行し、移った先でのことがあまり考えられていないケースも少なくありません。話の途中でコロッと違う学部・学科に興味に移ってしまうこともあります。

もし希望の学部・学科が転学部生を募集していて、出願資格があり、試験・面接に合格することができれば、転学部が実現します。面接では、これからどんな勉強・研究がしたいのか、そして転学部しなければそれはできないのだということを説明する必要があるでしょう。今の学部が合わないから、というようなネガティブな理由ではなく、こういことがしたい・学びたいというポジティブな理由を示すことが肝心です。

あれこれ話をしたのち、ストンと何か腑に落ちた様子でLSOを後にする学生もいます。転学部を考えてみることで、今の学部の良さを再確認できるということもあるのかも知れません。

(浅賀圭祐)



「ラーサポ回顧録」

LSO特定専門職員 多田泰紘



私がラーニングサポート室のスタッフになったのは2012年4月でした。それからおよそ5年…。この機会に、私がスタッフとして着任した当時のラーサポの状況と、そこで自分がどのように仕事に取り組んできたかを追懐したいと思います。

私が着任した時には、ラーサポ(旧アカデミック・サポートセンター)は準備組織として1年、業務を開始して1年半の計2年半(足掛け3年)が経過していました。教職員の方はピンと来るかと思いますが、組織の評価は大体4年ごとにやることができます。そして当時在籍していたスタッフの任期はその年度まででした(これは後の法律改正で少し伸びました)。

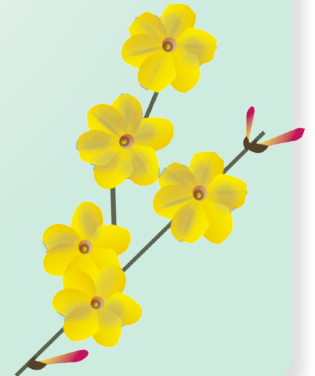
ーピンチです。ついこの前まで(研究で)虫を追い掛けていた私が、ラーサポの未来のために実績を挙げなければいけないのです。しかも、先輩スタッフの大半がいなくなってしまう可能性があります。私は、4月に時間割の相談に訪れる沢山の1年生に埋もれながら考えました——どうすればラーサポが生き残っていけるのか、どうすれば皆に必要とされる組織になれるか。まずは勉強です。「良い組織の条件は『芯』があること。」とK書店で立ち読みしたマーケティングの教科書に書いてありました。他の組織と差別化でき、かつ競合相手が

ないというのは強みです。ラーサポについて考えてみると、1) 相談対応スタッフが博士卒で、大学での学習・研究についての経験を持っている。2) 総合入試入学者の進路選択相談や学習支援を行う。という特徴があります。進路選択、学習相談と学生に需要がある業務に対して、適当な人材が配置されています(スタッフが教員では無いという点も、話しやすさを生み出す隠れたポイントです)。ラーサポの芯はしっかりしています。しかし芯の太い杭を刺すには強い力が必要です。しかもただ刺さっているだけではすぐに抜けてしまうかもしれません。さてどうしましょう…。

ヒントをくれたのは大学院で学んだ生物学の知識でした(正確には研究室の先輩の手伝いでやった草むしり)。大地に根を張った草はそう簡単に抜けることはありません。根の1本1本が大地に深く結びついているからです。ラーサポは大学に広く根を張るべきだと考えました。進路選択や修学支援で根を伸ばすとすれば、その先は学生相談室や保健センター、各学部の教員です。具体的には相談学生の紹介や受け入れになります。保健センター・学生相談室主催の勉強会にも参加しました。学習支援では附属図書館や国際本部(現国際連携機構)と連携して学習スキルに関する

セミナーを行いました。このように他の学生支援組織との結びつきを作っていました。

そうこうしているうちにラーサポは区切りの4年を優に越え、8年目に突入しました。入試制度改革に合わせて設置された組織としては年長の部類に入るでしょう。ラーサポが大学に根付いた要因、それは私1人の力ではありません。学生相談の依頼を受け入れ親身に対応していただいた学生相談室や保健センター、各学部の先生・スタッフの皆さん、セミナーの会場提供や広報をして頂いた図書館、国際連携機構スタッフの方々のお力添えがあつてこそです。私は3月末でラーサポを離れますが、この先もラーサポには学生支援組織のひとつとして北海道の大地に根を張り、成長を続けてもらいたいと思います。



編集後記

多田さんが退職されます。生き物とその多様性への探求心・好奇心が、そのまま他者への寛容・慈しみへとつながっているような、そんな人間的な魅力を感じさせる方でした。ちなみに、これから1年の間に多田さんを含め3人のスタッフが退職となります。LSOでは、2017年度はスタッフ入れ替えの節目の年になる予定です。

2016年度も皆様から多大なご協力を頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。(浅賀圭祐)



ラーニングサポート室

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 電話:011-706-7526 E-mail:lso@high.hokudai.ac.jp
北海道大学高等教育推進機構2階 URL:http://asc.high.hokudai.ac.jp/

次号は6月発行予定です